



福島県における 親と子のストレス調査の結果について (第二回調査)

福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチーム

筒井雄二 (共生システム理工学類)

富永美佐子 (人間発達文化学類)

高原 円 (共生システム理工学類)

高谷理恵子 (人間発達文化学類)

1

概要

•目的

「津波や建物倒壊の被災者に対する心のケアと、原発事故に関わる被害への心のケアは区別して考える必要がある」。我々は2011年6月から7月に実施した1回目のストレスアセスメントの結果に基づき、そのように結論づけた。小さな子どもをもつ親たちは、放射線に対する不安が強く、ストレスも高い。また、屋外での活動を制限された子どもたちは、特に低年齢児にストレス反応が強く表れた。原発被害者にはPTSD対策よりむしろ、ストレス対策が必要だ。

1回目の調査から半年、除染もすすまない低線量被ばく下で生活を続ける福島親子の精神的健康について明らかにするため、我々は2012年1月に再びストレスアセスメントを実施した。今回はその結果を報告する。 2